

島の新聞憲章

しまちから
島力をつける
バラバラでいっしょ
おもしろ、おかしゅう
魚眼と鳥瞰

聞いてくらし佐渡事情 しなしな行かんか島暮らし



島の新新聞

島の新聞

発行所

〒952-0108 佐渡市上新穂 646-9

島の新聞社

電話 0259-67-7630 FAX 0259-67-7630

http://www.k5.dion.ne.jp/~simanews

メール shima-shin@honey.ocn.ne.jp

印刷 株式会社佐渡中央印刷所

定価 210円

100号

世界のHOKUSETSU



ニューヨーク店内に並ぶ北雪の樽

二六年前のこと、アメリカ・ロサンゼルス郊外の「MA TSUHI SA」に矢沢永吉氏がファンから贈られた北雪大吟醸を持ち込んだ。オーナーシェフの松久信幸氏がその酒に惚れ込み、店で扱うようになる。客の俳優ロバート・デ・ニロ氏にお気に入りの酒にもなった。一九九三年、同店は「ニューヨーク・タイムズ」紙で世界のトップレストランに選ばれ、翌年デ・ニロと松久は共同経営でニューヨークに和食レストラン「NOBU」を開店。北雪大吟醸は「NOBU」の酒となる。現在「NOBU」レストラン＆ホテルは世界一八カ国三六店舗と大躍進。さらに、デ・ニロ

佐渡から世界へ

新潟も東京も世界もみな海外

「佐渡からみれば、新潟も東京も世界もみな島外、海外」。尾畑酒造(株)の平島健社長(51歳)のメッセージだ。これからの佐渡のキャッチコピーにしたい。地域密着で地域特性を生かして、世界的水準で事業を展開する。グローバルで、かつ地方(創世)の時代の今日、グローバル(グローバル&ローカルの造語)な企業・島をめざすことが、佐渡が生き残る道ではないか。すでに一歩先んじている人々がいる。(長野雅子)



ニューヨークでの試飲会

ワイン文化に酒を

「地産地消が理想ですが、人口減と高齢化のなか飲酒人口は実人口より先に減っている。輸出は全出荷量の約5%。利益があがるころまではいい。外へ出ることは当然の帰結です」「世界の日本酒」になつていかねば、日本酒業界の将来は危うい」と平島さんは明解だ。真野地区で一八九二年に創業した尾畑酒造は、アメリカ・香港・シンガポールなど十カ国に日本酒を輸出する。真野鶴大吟醸はエルフランス・ベトナム航

空のファースト・ビジネスクラス専用機内酒にも採用されている。

「アウトラウンドからインバウンドへ」ですね。海外へ出て行き、佐渡の酒が認知されることにより、人が佐渡へ入ってくる。取引先はもちろん、お酒を飲んだ人も現地をみたいとやってくる。佐渡を案内すると、すごく喜んでもらえます」

日本の介護の輸出

「外国人の雇用しにくい」

二〇一五年五月に社会福祉法人よつば福祉会ケアセン

ター「うしろやま」を設立し、人材難に直面した山下峯生

さん(40歳)は考えた。佐渡は高齢化率四〇%超、労働力人

口は約五〇%で約三万人、介護施設を増設しても、人が足りない。全国的にも状況は同

じで、言葉の壁や日本の介護になじめなく、外国人の定着

率が低いという先例がある。「日本語と日本の介護技術を身に付けてから佐渡へ来て働いてもらおう」

日本の介護の輸出を試みる。ミヤンマーに現地法人

Care Support Cloverを

設立し、現地雇用してヘルパー派遣と配食サービス

を始めた。ミヤンマーにはそれまでなかった介護サ

ービスだ。また同国から二人の女性を佐渡に招き、伝統文化と環境福祉の専門学校

で学ばせている。

「日本の介護福祉士の資格を取って、彼女らは佐渡への人材供給のために働いてくれると期待しています」

山下さんはデイサービスとグループホームを運営する(株)クローバー佐渡の経営で実績がある。新たな展開のために日本貿易振興機構による研修会に参加し、佐渡高校同級生からミヤンマーの知人を紹介されて同国と結びついた。

川康夫さんは、絶えざる挑戦と努力が運を持続に変えたと自負する。

(株)北雪酒造は一八七二年創業。売上はリーマンショックで少し落ち、そこから今日まで二・五倍増。出荷量の二割を輸出する。

米と共に佐渡を売る

「四年前にシンガポールに

行った時、佐渡と縁のある人

佐渡を訪れたことがある人に

出会い、すでに佐渡は世界と

つながっている。こちらが動

けば何かに当たると実感しま

した。それは先人たちの努力

の賜物で、それをつなげてい

くことが、私たちの使命だ

と、思いいます」

米づくりの将来への使命感

を持ち、相田忠明さん(41歳)

は新潟市内での海外向け商談

会に参加し、シンガポール伊

勢丹の現地

人社員と意

気投合し、

初の海外物

産展を実現

させた。

「お米だけ

でなく、そ

の場で鬼太

鼓を演じた

り、佐渡そ

のものを紹

介する。そ

して田んぼ

が、その後は減少し、地元の

熱心な保全活動にもかかわらず、今シーズンはわずか八羽

になりました。

国中平野で越冬するマガンの群れは離島では唯一の個体群であり、貴重です。しかし、現在は危機的な状況に陥っており、今シーズンは十月に渡り途上の小群が立ち寄っただけで、十一月に入っ

てからはほとんど飛来しませんでした。一月下旬から五〇羽くらいの群れが現れて、二月下旬には今シーズン最多の六六羽になり、そのま

ま三月十一日まで国中平野に滞在しました。この飛来パターンは二〇一〇一二年のシーズンから同じです。これ以上減少しないように、早急に保全策を講じる必要があります。

このシーズンを締めくくるにあたり数を減らしている鳥としてマガンをとりあげましたが、マガンだけでなく私たちの身近にいた無名の鳥たちが人知れず姿を消している現実を見逃してはならないと思

います。

一〇〇羽を超えていました

成鳥の羽ばたき

佐渡の野鳥

マガン

日本野鳥の会会員

近藤 健一郎

国中平野で越冬するマガンの数が減少したのは、一九九七年から始まった土地改良事業が大きな原因と思われ

ます。大正年間に整理された一〇〇区画の圃場が一畝区画に広げられ、用水路がなく

なり揚水機場から用水を汲み



ヤンゴンの医療関係の学会で日本の介護のデモ



シンガポール伊勢丹で鬼太鼓を紹介。鼓童のECに来たことがあるシンガポール人と記念撮影。

「お米だけでなく、その場で鬼太鼓を演じた」佐渡のものを紹介する。そして田んぼが、その後は減少し、地元の熱心な保全活動にもかかわらず、今シーズンはわずか八羽になりました。国中平野で越冬するマガンの群れは離島では唯一の個体群であり、貴重です。しかし、現在は危機的な状況に陥っており、今シーズンは十月に渡り途上の小群が立ち寄っただけで、十一月に入っ